



「^{あみだどう}阿弥陀堂・^{こえいどう}御影堂（京都 東本願寺）」

手前が阿弥陀堂で、奥が親鸞聖人の御影（木像）がおかれる御影堂。両堂とも親鸞聖人750回御遠忌の記念事業でご修復され、2019年には国の重要文化財にも指定された。

真宗大谷派

願興寺だより

第 82 号

2022年（令和4年）

1月1日発行

発行 者
願 興 寺

長岡市関原町1丁目1019

〒940-2035

TEL 0258-46-2316

FAX 0258-46-7499

<https://gankouji.org/>



謹んで新春のお祝詞を

令和四年元旦



巻頭言

願興寺開基六〇〇年にあたり

願興寺住職 高橋 深恵

あけましておめでとうございます。昨年中は、当寺の護持に対しまして、ご協力とご理解を賜り、ありがとうございます。本年もよろしくお祈ります。

さて今年には願興寺の開基六〇〇年の節目の年であります。『願興寺縁起』（由緒書き）によれば、応永二十九年（一四二二年）に佐渡出身の武士・高

橋源左衛門唯春（釋圓恵）によって開かれたと伝わっています。以来、一向宗の弾圧で寺が取り潰されたり、二度の大火により本堂や庫裏などが焼失したり、また戦争や自然災害など、実に数えきれないほどの苦難を乗り越え、現在に至ります。改めて願興寺を護持されてきた先人の方々のご苦勞に頭が下がります。

話はそれますが、昨年の暮れに京都・東本願寺での住職修習・住職任命式を受けて、正式に願興寺の住職を拝命いたしました。新型コロナウイルスの影響で二年延期していたしましたので、本当に待ちに待ったことでした。

開基から数えて、私で二十四世（代目）となりますが、それは願興寺の六〇〇年の歴史とそれを支えてこられた先人の願いを受け継いでいくことなのだと感じています。そして開基六〇〇年の節目に住職になったということは、これから先の願興寺の新しい歴史を紡いでいく責任があるのだと身がひきしまる思いです。

まだまだ未熟ではありますが、坊守共々、皆様からの、さらなるご指導ご鞭撻の程、よろしくお祈り申し上げます。

報告 住職修習・住職任命式

十二月十一日から十三日の日程で京都・東本願寺で行われた住職修習・住職任命式に行ってきました。



新型コロナウイルスの影響で二度の延期を余儀なくされましたが、全国的に感染が落ち着いている状況を鑑みて、なるべく早めにということで、住職修習に参加する運びとなりました。



この度は住職とともに副会長の長谷川勇氏、私、長谷川弘二の三名で参りました。



十一日の午前九時半より開講式。その後はオリエンテーションなどを行い、午後から講義や話し合いなど、瞬く間に初日が終わりました。

二日目は午前中、住職さん方は法要の出仕の心得を学び、私たちはお内仏について教えていただき、普段なかなか聞くことができないので ありがたかったです。その後は境内の清掃奉仕を行い、午後からはお寺の役割や使命について学び、他の住職さんたちとともにこれからのお寺をどうしていったらいいのか意見を交わしました。

三日目の全体座談会では総代と住職が向き合い、互いに抱負と決意を語るのですが、様々な思いがあふれ、こみ上げてくるものがありました。そして午後から、いよいよ御影堂にて住職任命式が行われました。うちの住職はもちろ

んですが、他の新しい住職さんたちが誕生する場に立ち会うことができて光栄でした。



待ちに待った新任職の誕生。やっとスタートラインに立たされたと思います。改めて、「代務」がはずれた新任職とともに、願興寺を盛り立て、ご門徒の皆様が気軽に足を運んでいただけるようなお寺になっていくことを願います。

(報告 長谷川弘二)



報告

永代経法要

十一月十四日に恒例の永代経法要が勤まりました。当日はたまの秋晴れということもあり、約六十名の方々からお参りをいただきました。



永代経法要は「永代に故人を供養していただくために、読経が行われること」の考えの他に「永代に三部経（仏教

の教え）を伝えていくこと」の意味があり、仏法聴聞の場であるお寺を護持して下さっている皆さんへの感謝をこめて勤まる法要でもあります。



法話は新潟市の明誓寺住職・田沢一明師にお話しいただきました。田沢師は永代経法要の案内の呼びかけにあつた「亡くなられた方を偲びつつ、自分自身を見つめ直す機会をいただく」ことに触れら

れて、私たちは亡くなられた方々をいったいどのような存在として受け止めているのか、問いかけられました。

様々な受け止めがあります。が、仏教では亡くなられた方々を仏さまや光となって私たちのそばにいと表現されてきたのだと。それは亡くなられた方々を自分の都合でどこか遠くに追いやるのではなく、私たちに寄り添い、時に問いかけ、導き、支えてくる存在として受け止めてきたのだとお話し下さいました。私たちは自分の都合通りに



事が運んでいくことを幸せであるかのように考えております。しかし自分の都合ばかりを考えていくことは、自分以外の他者をかえりみず、排除してしまうということでもあります。そのような私たち人間の愚かさを見つめ続けられたのが仏教の教えです。その教えに触れるご縁を亡き方々が私たちに繋げて下さっているのだと、田沢師の法話をお聞きし、改めて考えさせられました。



報告

秋季彼岸・永代供養墓

合同法要

去る九月十九日に秋季彼岸法要が勤まりました。また今回より永代供養墓の合同法要も併せてお勤めいたしました。先に永代供養墓の前にて法要が勤まり、ご縁のある約二十名の方がお参りをされました。



永代供養墓「清風精舎」は建立されて十年以上が経ちますが、これまでに多くの方々とのご縁を結んでまいりました。そのご縁を大切にしていきたいという願いから今回の合同法要が勤まりました。



その後は、引き続き、本堂にて秋季彼岸法要のお勤めが行われました。



通常であれば、法要の後は講師の方から法話をしていたのですが、この度は趣向を変えて、ミニコンサートを開催いたしました。



演奏をいただいたのは、長岡市内を中心に活動されているジャズユニットの方々に、「お祭り」をテーマに賑やかで楽しい音楽を聞かせて下さいました。奇しくも新型コロナウイルスの影響により二年連続で関原のお祭りが中止になっていたこともあり、このような催しは久しぶりだったという声も聞かれました。



今回は試行錯誤しながらの合同法要でしたが、皆様にお参りしてよかったです。ただただけるよう、またあれこれ考えていきたいと思えます。

法話「一ナー」

『仏説無量寿経』

について②

《原文》

仏、阿難に語りたまわく、
 「無量寿仏は寿命長久にして
 称計すべからず。汝むしろ
 知らんや。たとい、十方世界の
 無量の衆生、みな人身を得
 てことごとく声聞・縁覚を成
 就せしめて、すべて共に集会
 して、思いを禪かにし心を一
 つにして、その智力を竭して
 百千万劫において、ことごと
 く共に推算してその寿命の長
 遠の数を計えんに、窮め尽く
 してその限極を知ること能わ
 じ。

《現代語訳》

【釈尊は阿難に語られた。「無量寿仏は、寿命が長く久しく、計算することとできない。どうして汝にわかるであろうか。わかるはずがない。たとい、十方世界の無量の衆生が、人間の身を受けて生まれたとして、こ

とごとく声聞となり、縁覚となつて、すべての者が集まって、心を静めて精神を統一して、百千万劫にわたつて智力を尽くして、ともどもに計算して、無量寿仏の寿命の長さを計つたとしても、結局のところ、寿命の極限を知ることとできないのだ】

「声聞・縁覚」

「声聞・縁覚を成就せしめて」声聞とは煩惱を滅して阿羅漢になろうとしている人を言います。

そしてさらに非常に珍しい出来事として、縁覚になる。縁覚とは、無師独悟して縁起という道理に目覚めた人です。一種の覚りを得た人です。辟支仏ともいいます。

「声聞」とか「縁覚」という言葉が出てまいりましたが、これは「『仏説無量寿経』が出来上がる少し前に「三乗」という思想がありました。

「声聞乗」・「縁覚乗」・「菩薩乗」のことです。「声聞乗」

とは声聞の人たちが乗る乗り物ということですが、これは四諦の法（苦・集・滅・道）を修めたら、煩惱がなくなつていくという教えなんですね。煩惱のなくなつた人を阿羅漢というのですが、それが声聞の理想です。

「縁覚乗」あるいは「独覚乗」というのは縁起の法を覚つて「辟支仏」に成る。お釈迦様は縁起という法を覚られて仏に成られたわけです。けれどもお釈迦さまは自分が覚られた後で、多くの人々にその教えを語られたのです。自分の覚りの経験を多くの人々に語つて聞かせられたわけです。ところが縁覚というのは「縁起の法」を覚つて辟支仏に成つたけれども、そこまでなのです。

実はお釈迦さまは覚りを開いてから、最初に教えをとかれるまでに数週間あつたので

す。この間を「辟支仏」といいます。覚つたという点では仏なんです。まだ誰にも語っていないから、それは人類にとつて仏はいないのと同じなんです。つまり初めて教えを説く、自分の覚りの体験を語つて聞かせることによつて、初めて地球上に仏が姿を現したことになるわけです。だから縁覚というのは覚つたけれども人には一切語つていない状態なのです。これを大乘仏教は自分のことしか考えていないのではないかと批判します。それに対して「菩薩」という考え方があります。

「菩薩」は「人々を救いたい」と願っている存在です。これが仏教の理想的なあり方、つまりお釈迦さまは自分の満足のためではなく、菩薩の願いをもつて活躍されたのです。

古田和弘師講述

『仏説無量寿経』より抜粋

おくやみ

令和三年七月〜令和三年十二月

ご生前のご功労を偲び、

謹んで哀悼の意を表します。

- 七月十四日 草生津 岩崎ユキエ 九十二歳
- 七月十七日 曙 棚橋美智子 八十六歳
- 七月二十四日 中島 廣川キン 九十八歳
- 八月十九日 上除 太刀川幸雄 七十五歳
- 八月二十日 坂之上 川口弘治 八十五歳
- 九月五日 大山 五十嵐テル 八十六歳
- 九月二十六日 関原一 原 義勇 九十四歳
- 二月二十三日 上除西 太刀川保 八十六歳
- 十月一日 関原南 丸山良吉 九十九歳
- 十月八日 上除 太刀川圭二 九十五歳
- 十月八日 西山町別山 長谷川マリ子 八十三歳
- 十一月五日 上除 枳倉 洋 八十歳
- 十一月十二日 中島 嘉瀬三男 九十三歳
- 十一月十六日 中島 長谷川良夫 八十七歳
- 十二月一日 旭岡 牛木真由美 六十三歳
- 十二月七日 西蔵王 平澤信行 六十六歳



COLUMN

江戸時代の浄土真宗

願興寺衆徒 太田 修

徳川家康は、仏教を大切にしました。戦国時代も終わり、武士は儒教を学び、農民・庶民に仏教をすすめた。信長は仏教を弾圧してキリスト教をすすめたが、家康は平和に徹し、鎖国の中で農業を盛んにした。本当の天下統一とは、戦争のない三度の飯を食べられ、子供も増え、先祖の墓を大切にすることである。

浄土真宗は、当初からこの考え方を持っている宗教であったので、家康はこの宗派をすすめ、京都七条に本山を置き、全国に本願寺教団に属する寺院を数多く置き、さらにその下に村落、家ごとに一家一寺制を置いた。(本山一末寺制)

その檀家では、葬儀、年季法要、講、宗門改帳(生・死・奉公などの人別帳)を檀那寺に依存した。もともと浄土真宗においては寺院を建立する意図はなかったが、徳川幕府の政策(民衆掌握)と浄土真宗普及の意図が一致した結果であらう。

徳川幕府が倒れた明治維新の時でも(廃仏毀釈)真宗は大きな影響を受けず、伝統仏教集団の中でも最大の教団として現在も存在している。(約二万ヶ寺、千三百万人)



2021年下半期 行事報告

2021年7月～2021年12月

- 7月6日 ● お経会①
- 20日 ● お経会②
- 27日 ● 盆参 講師 松野秀則師
- 28日 ● 初めてのヨガ教室
- 8月1日 ● 盆参 講師 高橋深恵師
- 7日 ● 盆参 講師 今泉温資師
- 10日 ● お経会③
- 13日～16日
 - 盂蘭盆会
- 18日 ● 墓地清掃 (お盆片づけ)
- 24日 ● お経会④
- 31日 ● 初めてのヨガ教室
- 9月7日 ● お経会⑤
- 14日 ● 法中講
- 19日 ● 秋季彼岸・永代供養墓合同法要
- 21日 ● お経会⑥
- 28日 ● 初めてのヨガ教室
- 10月5日 ● お経会⑦
- 16日 ● 三役会
- 19日 ● お経会⑧
- 27日 ● 初めてのヨガ教室
- 11月9日 ● お経会⑨
- 14日 ● 永代経法要 講師 田沢一明氏
 - 第4回役員会
- 16日 ● お経会⑩
- 24日～25日
 - 願興寺秋の旅行
 - 赤倉ホテル 有縁講
- 30日 ● 初めてのヨガ教室
- 12月10日～13日
 - 住職修習・住職任命式
 - (京都・東本願寺にて)
- 21日 ● 初めてのヨガ教室
- 31日 ● 除夜の鐘

2022年上半期 行事予定

2022年1月～2022年6月

- 1月1日 ● 修正会
- 2日 ● 年頭法会
- 4日 ● 寺年始
- 26日 ● 初めてのヨガ教室
- 2月2日 ● 前坊守祥月命日
- 3日 ● 前々坊守祥月命日
- 5日 ● 前々住職祥月命日
- 13日 ● 会計監査
 - 第1回役員会
- 16日 ● 初めてのヨガ教室
- 3月6日 ● 新旧世話方会議
- 下旬 ● 春季彼岸法要・帰敬式
- 30日 ● 初めてのヨガ教室
- 4月初旬 ● 第2回役員会
- 20日 ● 初めてのヨガ教室
- 5月18日 ● 初めてのヨガ教室
- 28日～29日
 - お取越報恩講
- 29日 ● 前坊守祥月命日
- 6月22日 ● 初めてのヨガ教室
- 26日 ● 願興寺お茶会



新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては予定を変更させていただくことがあります。

報告・案内

ヨガ教室



願興寺では毎月一回ヨガ教室を開催しています。初めて参加の方も、そうでない方も皆さんと一緒にできる範囲で楽しめる教室です。冬場になりなかなか体を動かす機会が減ってくる時期かと思えます。ぜひお寺でヨガを始めてみませんか？

二〇二二年予定

- 時間 十三時開場 十三時半開始
 - 会場 願興寺庫裡
 - 持ち物 飲み物・タオル
 - どなた様でもご参加いただけます。
- 一月二十六日(水)
二月十六日(水)
三月三十日(水)
四月二十日(水)
五月十八日(水)
六月二十二日(水)

第十八期 お経会 案内

真宗門徒のお勤めに欠かせない「正信偈」を読めるようになりたいと思いませんか？七月から十一月の全十回の日程で正信偈を中心とした練習をしています。ぜひ皆様のご参加お待ちしております。

第十八期お経会 予定

- 第一回 七月五日(火)
 - 第二回 七月十九日(火)
 - 第三回 八月九日(火)
 - 第四回 八月二十三日(火)
 - 第五回 九月六日(火)
 - 第六回 九月二十日(火)
 - 第七回 十月四日(火)
 - 第八回 十月十八日(火)
 - 第九回 十一月一日(火)
 - 第十回 十一月十五日(火)
- ▼ 隔週火曜(全十回予定)
▼ 午後七時三十分～九時
▼ 事前申し込み不要
▼ どなた様でもご参加いただけます

報告

願興寺秋の旅行 赤倉ホテル有縁講



十一月二十四日～二十五日の日程で赤倉ホテル有縁講に参加してまいりました。今回は十一名の参加でしたが、久しぶりの旅行ということもあり、楽しく過ごさせていただきました。二日目は天気も良かったので、長野の善光寺にまで足を延ばしました。新型コロナウイルスの影響で今回は少人数でしたが、次はもっと大勢の方と共に行きたいものです。

編集後記

新年号の編集に追われる「師走」。なんとなく毎日慌ただしく過ごしています。

コロナ以前であれば、この時期、よく住職が忘年会などの飲み会に出かける度に、内心「またか」と溜息をついていましたが、それも何だか懐かしく思います。

最近では感染状況も落ち着いているので、規制も緩み、そろそろ元の生活に戻そうという動きも見られますが、一度変えてしまったことは早々に元に戻るとは思えませんし、それが果たして正しいのかも分かりません。

ただ、元の生活に戻りたいと嘆くよりは、今現在の私の生活を見つめながら、新しい発見に出会うことの方がいいかなと思う今日この頃です。



編集委員

高橋智美